

英語予備調査で問題点続出

今年度の全国学力テストでは、一部の中学校に対して、英語の予備調査が実施されました。この予備調査について、実施した中学校からのアンケート回答を踏まえた報告書(*)が公表されました。報告書からは、問題点が続出したことが明らかとなりました。

(*)「平成 30 年度全国学力・学習状況調査 中学校の英語予備調査の実施を通じて」
2018/06/27 株式会社内田洋行

I 英語予備調査とは？

予備調査は、「平成31年度全国学力・学習状況調査の中学校調査における英語調査の確実かつ円滑な実施に資することを目的」(実施要領)として実施されました。

実施期間は、5月1日から5月31日までの間の1日で、全国の公立中学校136校の3年生、約2万人が予備調査を受けました。

「聞くこと、読むこと、書くこと」調査については、マークシート方式で、45分間の調査でした。CDを校内放送で流して、各教室で実施されました。

「話すこと」調査については、個別調査でした。パソコン教室で、USBヘッドセットを使って音声録音する形式で、一人あたり準備時間を含めて15分程度でした。

II 「概ね大きな支障なく実施終了」？

報告書では、「概ね大きな支障なく実施終了」とされています。しかし、コールセンターへの問い合わせ数が、377件ありました。問い合わせ内容は、「設定手順及び回収手順」を筆頭に、「システム不具合等」「実施手順」など準備段階から事後処理まで多数におよび、実施した学校でどれだけ困難が多かったかをうかがわせるものとなっています。

設定手順及び回収手順	101 件	システム不具合等	83 件
実施手順に関して	60 件	スケジュール調整等	25 件
レンタル PC	21 件	その他	73 件
(報告書より)			

また、実施した結果については、136校中15校から機器の不具合を中心に次のような報告が上がっています。なお、録音未完了の件数については集計中であるとされており、問題はさらに広がると思われます。いずれにしても、136校で実施したものの、機器の不具合などの調査実施に直接関わるトラブルが多発したのであり、「概ね大きな支障なく実施終了」(報告書)とはかけ離れた実施状況であったと考えられます。

【実施状況】

全 136 校 概ね大きな支障なく実施終了

(うち 15 校において下記の報告あり)

○予定日時に実施できなかった学校：2校

「話すこと」調査のための事前環境確認を行っておらず、直前に PC 環境に不具合があることが判明し、予定日時に調査を実施することができなかった。

○一部生徒の「話すこと」調査の音声データ録音不具合：3校

- ・PCの性能不足等により、一部データの録音未完了：2校
- ・誤って保存前にPC電源をオフにしてしまい録音未完了：1校

*その他、調査途中に音量調整つまみをオフにしてしまった等による録音未完了の件数については、現在集計中。

○校内放送の不具合：5校

「聞くこと、読むこと、書くこと」調査において、校内放送を使用した際に、調査途中で放送が途切れてしまう等の不具合が発生。機器を調整し対応。

○機器の不具合：5校

一部のヘッドセットなどに不具合があり予備にて対応。 〈報告書より〉

III 「聞くこと、読むこと、書くこと」調査について

15校での不具合事例以外にも、予備調査で浮かび上がった問題点について、もう少し詳しく紹介したいと思います。

「聞くこと、読むこと、書くこと」調査については、1枚のCDを使用すること、このCDが「聞く」「読む」「書く」の各パートの進行を司ることから、次のような問題が起きました。以下、報告書内の、学校からの調査終了報告を(校)、内田洋行まとめを(内)、として紹介します。

- ・「聞くこと、読むこと、書くこと」調査の説明時間が足りなかった。(校)
- ・CDを用いて進行を管理するため、開始のタイミングを統一する必要があるが、調査前の注意事項の読み上げ等は個別に実施するため、特に学級数が多い場合、ズレが生じる可能性がある。

また、CDを用いて、「聞く」「読む」「書く」の各パートを分割しているが、問題冊子は1冊のため、音声の進行を無視して生徒が調査を進める可能性がある。(内)

IV 「聞くこと」「話すこと」調査について

英語調査については、特に、特別な配慮が必要になってきます。なぜかという、学校には補聴器や人工内耳をつけている子どもが増えてきているという実情があるのです。そのため、実施校からは、次のような問題点が指摘されています。

- ・聞こえ方に個人差があるため調整が難しい。

V 「話すこと」調査の問題点

生徒に対して個別に実施する「話すこと」調査は、「聞くこと、読むこと、書くこと」調査より

さらに深刻な問題点を抱えています。

ア 準備などに時間がかかる

全体の半数近くの60校から、準備と事後処理に時間がかかるという報告がありました。

- ・ 2本のUSBで40台のPCにダウンロードするのに時間がかかる（校）
- ・ 2本のUSBへ全生徒の音声データを回収するのに時間がかかる（校）
- ・ 前日に約40台に調査プログラムを展開する必要があるため、「話すこと」調査担当者以外にも人員を確保する必要がある（2～3人で約2時間の作業）。また、調査後もデータを収集する必要があるため、同様に人員を確保する必要がある。（内）

イ 1日で終わらない

学級数が多い学校では、調査が1日で終われないという意見が、9校から寄せられました。事前に、学級数が多い学校には1校あたり40台のレンタルパソコンが送付されましたが、それでも足りなかったと考えられます。

- ・ 学級数が多い学校は1日での実施が難しい（校）
- ・ 特に大規模校は余裕をもって資材を配送してほしい（校）
- ・ 3学級×3時限分以上の学級を有している学校（調査対象が10学級以上の学校）は、時間的に3時限で「話すこと」調査を終了することができないため、何らかの形でPC環境を措置する必要がある。
また、電源についても事前に確認する必要がある。（空き教室や、図書室への設置が多かった）
→ 予備調査においては、該当校に対し、調査実施1週間前にレンタルPCを40台送付。136校で約900台のPCを必要とした。（内）

ウ 正確に学力が把握できない

解答の公平性が担保できないという意見が、40校から寄せられました。近くの生徒が解答する声が聞こえてしまうことや、すでに調査を終えた生徒とまだ実施していない生徒が接触して解答を教えることを防ぎきれないことなどがあり、「話すこと」調査では正確な学力を把握することができません。したがって調査する意味がなくなります。

- ・ 「話すこと」調査において、生徒間の座席の距離が近いこと、互いの声が聞こえてしまう（校）
- ・ 他者の発話の漏れ
PC室等で一斉に生徒が発話するため、近くの生徒の発話に影響を受けて解答する場面が想定される。（内）

- 対応案 ・簡易間仕切りなどの対応を図る。
・出題の順番を変えて、タイミングが重ならないようにする。
等々の検討が必要だと思われる。(内)

・実施規律

近くの生徒の発話がどうしても聞こえてしまうため、他者の解答の影響を受けて、会場の雰囲気が弛緩する可能性がある。(内)

・機密性の保持

基本的に、1つのPC室で各学級が順次調査を実施するため、既に「話すこと」調査を実施した生徒が、実施していない生徒と会話する可能性を否定できない (内)

V 英語調査の中止、不参加を

以上まとめますと、事前調査では、機器などのトラブルが続出したこと、準備などに長時間を要したこと、また、とくに「話すこと」調査についてはその学力把握ができないことなどの致命的欠陥が明らかとなりました。また、学校にとっては、国語・数学の学力調査だけでも1日かかるのに、英語調査を加えると2日間(あるいは大規模校では3日間となるかもしれない)要することとなり、その間の授業をはじめとした学校教育全体に大きな支障を生じると懸念されます。このように、英語調査は中止すべきであることが、予備調査を通じてはっきりしたので

す。文科省は来年度、全ての中学校で英語調査を行う方針ですが、これを中止するよう求めるとともに、市町村教育委員会に対して調査に参加しないことを要請していくことが求められています。

イ 実施に時間がかかる

ウ 前日に、調査問題が入った USB メモリーを 40 台のパソコンにコピーすること、半数近くの 60 校から、「話すこと」調査の準備などに時間がかかるという報告がありました。

「話すこと」調査において、
での問題点

「話すこと」については、ヘッドセットなどの機器調査の不具合に加えて、パソコン教室という調査実施環境が不適切であること、生徒に個別実施することで起きる問題点などから、どうして解決できない課題が明らかとなりました。

V 「特別な配慮」について

- ・【特別な配慮】「聞くこと」「話すこと」調査において、聞こえ方に個人差があるため調整が難しい。(校)
- ・【特別な配慮】「聞くこと、読むこと、書くこと」調査において、拡大用の問題用紙が縦になったり横になったりして見づらい。(校)

PC室等で一齐に「話すこと」調査を実施するため、生徒が発話する（解答する）タイミングが重なり、他

③「話すこと」調査の運営上の課題

○他者の発話の漏れ

PC室等で一齐に生徒が発話するため、近くの生徒の発話に影響を受けて解答する場面が想定される。

○実施規律

近くの生徒の発話がどうしても聞こえてしまうため、他者の解答の影響を受けて、会場の雰囲気は弛緩する可能性がある。

○機密性の保持

基本的に、1つのPC室で各学級が順次調査を実施するため、既に「話すこと」調査を実施した生徒が、実施していない生徒と会話する可能性を否定できない。

○USBヘッドセット

音質を担保するため、USBヘッドセットを用意しているが、手元のリモコン操作でマイクのON/OFFや音量調整ができってしまうため、誤ってマイクをOFFした場合に音声は収録されない可能性がある。

者の影響を受ける可能性がある。

できました。

学力調査に値しないことが明らかとなりました。ということがとならないことが生徒数が多くなればなるほど待機母校になればあためにしたところが対象は、都道府県・指定都市から推薦された公立中学校等の3年生で、問う{` epe30, ys@p@ybht@hl) h ? t@hd(4d@) 4g) 4a) 4x a (4t@Zb4 k 5eb@9v@a) 4x k d@Zd ~ z4d@w。を実施したのは、「株式会社内田洋行」で、さる6月27日実施校に対するアンケート調査が行われ、行われました。

6月末に、英語調査について、実施校全国の 中学校（生徒数 ）において英語予備調査が行われました。この予備調査から、次のような問題点が続出したことが明らかとなりました。（文部科学省 第 回全国的な学力調査に関する調査研究会議 配付資料 2018. 6. ）

- 器機の不具合が多発
「読むこと」「書くこと」「聞くこと」では、録音されたCD
「話すこと」では、

- 「話すこと」の調査が公正に実施できない

- 「話すこと」で膨大な時間がとられる
調査が1日で終わらない

- 民間企業への丸投げ
コールセンターへの質問が
正確な学力が把握できない